

各ピットの深さに対する互いに異なる値を限定することによって当業者が容易に範囲を限定した程度であり、目的及び効果も予測可能な程度である。

2. 請求範囲第2項も第1、2のピットの深さを限定したことに特徴があるものであるが、各ピットの深さ範囲は引用例1の範囲にある各値であり、当業者が選択的な採択程度によって限定できる程度に該当する発明である。

3. 請求範囲第5項～第14項は各ピットの深さによる信号極性に特徴がある各発明であるが、このような特徴は引用例1の図面第6図～第20図と日本特開平第5-205276号(1993.8.13. :引用例2)の詳細な説明全般と各図面によって深さによる各信号の極性変化によって当業者が容易に発明できた程度である。

4. 請求範囲第15、20項は光ディスク再生装置に関するもので、第1、2検出ユニットと再生ユニットで構成されたこととメイン情報ユニット、付加情報再生ユニットに特徴がある発明であるが、このような構成は引用例2の図面第1図と米国特許第5537373号(1996.7.16. :引用例3)の図面第1B、2B、3図の構成によって当業者が容易に設計できた程度の発明であり、目的及び効果も同一な発明である。

5. 請求範囲第16項～第19項は再生ユニットに特徴がある各発明であるが、このような特徴は引用例2、3によって当業者が容易に設計変更し、構成できた程度の各発明である。

従って、上記各発明は特許法第29条第2項に該当する。

## 記2

1. 請求範囲第29項は如何なる再生方法に対して請求しているか不明瞭な記載であるので、特許法第42条第4項に違背する。

### [添付]

添付1 引用例1：米国特許第5822294号(1998.10.13.)

添付2 引用例2：日本特開平第5-205276号(1993.8.13.)

添付3 引用例3：米国特許第5537373号(1996.7.16.)

2002年 7月 12日

特許庁 審査4局情報審査担当官室 審査官 ジャン ヒョン スク

T. YL491

発送日付: 2002.07.12

提出期限: 2002.09.12

## 特許庁 意見提出通知書

出願人 氏名 シャープ株式会社  
住所 日本国大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号

代理人 氏名 張秀吉 外1人  
住所 ソウル市鍾路区内資洞219 ハスリビル(金&張特許法律事務所)

出願番号 10-2000-0036420

発明の名称 OPTICAL DISC HAVING PITS OF DIFFERENT DEPTH FORMED THEREIN,  
OPTICAL DISC DEVICE FOR REPRODUCING THE SAME, AND METHOD OF  
REPRODUCTION

本出願に対する審査結果、以下のような拒絶理由があり、特許法第63条の規定によりこれを通知するので、意見があるか補正を行う必要がある場合は上記期限までに意見書又は／及び補正書を提出されたい(上記期限について毎回1ヶ月単位で延長を申請することができ、この申請について別途の期間延長承認通知はしない)。

### 理由

本願の特許請求範囲第1、2、5～20項に記載された発明は、その出願以前にこの発明が属する技術分野において、通常の知識を有する者が下記に指摘されたものにより容易に発明できたものと認められるので、特許法第29条第2項の規定に該当し特許を受けることができない。

本出願は特許請求の範囲の記載が下記2に指摘されている通り不備なものと認められ、特許法第42条第4項の規定による要件を満たしていないので、特許を受けることができない。

### 記

1. 請求範囲第1項は、従来の光ディスクと対比したところ、互いに異なる深さのピットを有しているながら、その深さの値が、 $0 < D1 < \lambda / 4n$  と  $\lambda / 4n < D2 < \lambda / 2n$  を満たすことに特徴がある発明であるが、このような特徴は米国特許第5822294号(1998.10.13. :引用例1)の詳細な説明の第9頁第51行から第14頁第2行までにおいて、